

第1回仙台市地域保健福祉計画推進委員会議事録

日 時	平成25年3月21日（木）14:00～16:00
場 所	仙台市役所本庁舎2階 第3委員会室
出席委員	阿部重樹委員長、鈴木孝男副委員長、阿部利美委員、木村一則委員、古賀詔子委員、齋藤道子委員、庄司健治委員、中田年哉委員、中村祥子委員、樋口稔夫委員、諸橋悟委員、渡邊純一委員、渡邊礼子委員（13名）
欠席委員	折腹実己子委員、小岩孝子委員、二階堂江里委員、渡辺祥子委員（4名）
事務局	健康福祉局 高橋健康福祉局長、鈴木健康福祉部長、石澤社会課長、氏家主幹兼地域福祉係長
担当課	健康福祉局健康福祉部社会課
次 第	1 開会 2 委嘱状交付 3 健康福祉局長挨拶 4 委員紹介 5 委員長・副委員長選出 6 議 事 （1）会議の運営について ①会議の公開について ②会議の議事録について （2）第2期仙台市地域保健福祉計画の評価手法等について （3）地域福祉の推進に関する新たな重点的取り組みについて （4）その他 7 報 告 8 閉 会
配布資料	・資料1 会議の運営について（案） ・資料2-1 本計画の評価手法等について（案） ・資料2-2 本計画 重点施策の個別事業一覧 ・資料2-3 平成24年度 自己評価シート（案） ・資料2-4 平成24年度 重点施策評価シート（案） ・資料3 地域福祉の推進に関する新たな重点的取り組みについて （参考資料） 第1回コミュニティソーシャルワーカー研究会 報告書

1 開会

- 氏家社会課主幹兼地域福祉係長
第1回仙台市地域保健福祉計画推進委員会を開催する。

2 委嘱状交付

高橋健康福祉局長より委員へ委嘱状を交付

3 健康福祉局長挨拶

○高橋健康福祉局長

委員の皆様には、年度末の大変お忙しい中、仙台市地域保健福祉計画推進委員会にお運びをいただき、心から感謝を申し上げます。また、委員就任のご快諾をいただきことに心から厚く御礼を申し上げます。

この委員会は昨年の10月に策定した、第2期仙台市地域保健福祉計画「支え合いのまち推進プラン」の進捗管理や評価を行うことを目的として設置した。とりわけ、この度の東日本大震災を経験し、地域が抱える福祉課題がさまざまな形で顕在化しており、しかもそうした地域の課題は決して画一的ではなく、それぞれの地域の実情を背景に多様化している。公平・画一を基本としてきた従来型の行政サービスの提供では、こうした地域の異なるニーズに的確に対応することは、ある意味で難しくなっている状況にあると考えている。そこで、地域福祉の担い手である皆様方の意見をお聞かせいただきながら、それを実現するために行政として「何をすべきか」、皆様方には「どのような取り組みをいただくべきか」、そして市民の皆様には「どんなメッセージを伝えるべきか」など、正に「自助・共助・公助」の理念が市内全域に浸透し、「市民の支え合いの輪」が一層広がるよう、力を尽くして参りたい。

本日の議事にあるとおり、新年度の新たな取り組みとして、地域が抱える様々な福祉課題を、地域の支援者の皆様方と顔の見える関係で解決するための調整役を担う、コミュニティソーシャルワーカーを区社会福祉協議会に設置することとしている。この事業は、地域の皆様が人と人との絆を深め、共同体意識を高めながら、新たな「支え合いのまちづくり」を推進するうえでの核となる取り組みであると認識している。今後106万仙台市民が大震災を共に乗り越え、市民協働をベースとして、それぞれの地域の実情に応じた地域福祉が確実に推進されるよう、委員の皆様には忌憚のない、そして建設的な意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

4 委員紹介

委員名簿順に、司会から委員の紹介

5 委員長・副委員長選出

事務局推薦により、阿部重樹委員を選出

阿部重樹委員長の指名により、副委員長に鈴木委員を選出

阿部重樹委員、鈴木委員は、それぞれ委員長席、副委員長席に移動

○阿部委員長

阿部でございます。よろしくお願ひいたします。まずは、委員長選出において皆様方に快く同意をいただいたことにお礼を申し上げます。地域保健福祉計画策定委員会の際には、皆様に大きなお力添えとご協力をいただいたが、これからも引き続きお力添え、ご協力いただくことをお願ひして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○鈴木副委員長

宮城大学の鈴木です。「支え合いのまち推進プラン」を推進するにあたっての委員会だが、私も日々被災地に通っている状況の中、仙台市の状況、特に災害公営住宅整備の進捗を新聞等でも、この委員会の存在がこれから非常に大事になってくるのではないかと思っている。世間ではスピードが注目されて、どこが早いとか遅いといった議論にどうしてもなってしまうがちだが、このプランを推進するにあたり、日々生活が良くなっているという実感を市民の方々に持っていただけるよう、その一助になれば、また、この委員会あるいは私のこの立場としての関わりの中から何か導き出していければ、と思っている。皆様の協力をよろしくお願ひいたします。

6 議事

(1) 会議の運営について

① 会議の公開について

② 会議の議事録について

○阿部委員長

それでは、議事を進めさせていただきます。

次第6（1）の①及び②について、事務局より説明をお願いしたい。

○石澤社会課長

（資料1により説明）

○阿部委員長

事務局からの説明について、意見・質問はないか。

（意見等なし）

○阿部委員長

今後の会議の運営については、会議は原則公開とし、審議の中で非公開とすべきものが出てきた場合は、その都度委員に諮り決めていきたい。

また、議事録については、私と委員1名の計2名が署名して作成することとする。毎回、署名していただく委員については、名前の50音順で順をお願いしたい。今回の議事録署名委員は阿部利美委員に願うがよろしいか。

（異議なし、阿部委員了承）

（2）第2期仙台市地域保健福祉計画の評価手法等について

○阿部委員長

次第6（2）について、事務局より説明をお願いしたい。

○石澤社会課長

（資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4により説明）

○阿部委員長

報告いただいた評価手法等について、質問をいただきたい。

○中村委員

社会課が自己評価するシートということだが、担当課はそれぞれ違う。その場合、担当課に社会課がインタビューするのか、それとも各担当課に事業の中でこういうものを特にやって欲しいという計画を先にお渡しし、その評価を基にこのシートを作成するのか。

○石澤社会課長

資料2-2のとおり、今回の計画に掲載した事業とそれぞれ担当課がある。これらの事業は、地域保健福祉計画の掲載事業ということで、重点施策の目標を共有している。まずは担当課がこの資料2-3を記載し、これをもとに重点施策の方向に対してどのような貢献ができ、どのような課題があるのか、ということをお集約し、重点施策全体としての評価をしたうえで、この委員会で説明させていただき流れを想定している。

○諸橋委員

以前、精神保健福祉活動で講座を行ったが、縦割り化していて、狭い領域であっても他の町内会でやっている行事が見えない、といったことがある。それらを繋ぐ活動がこれから非常に大事である。そういう意味では、事業が29もあると、この情報を共有することは行政にとっても大事だが、縦割り化した我々にとっても、この情報を共有してお互いの活動が評価し合える、刺激しあえるような作り方が重要ではないかと思う。どこまで活用できるかはわからないが、例えば仙台市社会福祉協議会のホームページへ掲載するなどして、どこでどのような地域活動、助け合いの活動が組み立てられ作られていくのか、そこでどういう動きがあるのかを知っていただくようにすると、活き

た評価になってくるのではないか。

○石澤社会課長

具体的にどのようなところと連携したかをこのシートに書いたうえで、貢献できたことなどを具体的に記載するようなかたちで、少なくともホームページで公開し、ご覧いただけるようにしたいと考えている。関係課で共有するようなことについても工夫したい。

先ほどの説明の補足になるが、重点施策以外の事業についても、もう少し簡易な形の自己評価シートを想定している。行政のほうで自己評価をして、次期計画策定の際に参考になるよう、行政による点検評価に取り組んでいきたいと考えている。

○阿部委員

このシートは、資料3にある重点支援地区が対象なのか。

○石澤社会課長

資料3のほうはまた別件である。シートは資料2-2の29事業について作成することを想定している。

○阿部委員

このシートはどこに配布するのか。町内会に配布するのか。

○石澤社会課長

資料2-3は、行政内部の担当課が記載する。行政として、地域保健福祉計画の掲載事業に位置づけられているものを、平成24年度にどういう成果をあげたのか、担当課に記載してもらおうという性格のものである。

○阿部委員

例えば、資料2-3で「4 平成24年度実施状況」や「5 重点施策の推進に対して」といった項目は、地域については何も報告がないのか。この施策に対して、地域ではどうなったかを書くシートではないのか。

○石澤社会課長

事業によってかなり違ってくると思うが、行政の中で完結するものもあれば、地域の皆様との連携によるものもある。シートの中には具体的に記載される部分も出てくると思うが、掲載する部分は行政のほうで書かせていただくということ。例えば、住民座談会の開催といった事業を行った場合に、太白区の八木山南地区で何回実施といった部分で出てくることはあると思うが、シートの記載をしたり集約したりするのは行政のほうで、事業を推進する立場として記載することを想定している。

○諸橋委員

一度流れのようなものを示してもらおうとわかりやすいのではないかなと思う。現場でのことを直接書くのではなく、コミュニティソーシャルワーカーあるいは町内会が行った行事を拾いまとめていく作業だと思うが、いくつかの要素を持っており、これが何に当てはまるのかという区分けをして、1つ1つ評価を与えていくことだと思うので、かなりしっかりとした体制を作っていかなければ大変ではないかなと感じる。その分しっかりと評価してもらおうよう、現場ではアピール力が求められると思う。

○阿部委員

例えばどこの地区でどうやった、そしてどういう効果があった、そういうシートがなければ行政でどうやって判断するのか。

○石澤社会課長

確かに社会課としては遠いところはあるかもしれないが、それぞれの事業担当課は、事業ごとに地域の方々と連携してやっている。そこは担当課がしっかりと記載し、事務局としてデータでわか

るようにしたものを集約して、皆様にわかるようにお示ししたい。

○阿部委員長

先ほどから事務局で説明されている担当課での自己評価にどれほど信頼をおけるか、という話はあるが、課題もあるし、貢献できたところもあると思う。単に実績だけではなく、その実績に対してとりわけ連携と協働の側面に焦点をあてて、良かったこと悪かったところがこの委員会にあがってくると思う。もちろんそのあがってきたものを、当委員会でどう評価するかということもあるが、当然地域社会でそれぞれ 29 の個別の事業にかなり密接に関わり合いをお持ちの皆さんなので、自分たちの実感とあがってきたシートに基づいた評価に乖離があれば、それをご指摘いただくという役割もあると思う。いい評価ばかりしているが、実際は違うのではないかという意見が出てくるとも、場合によってはあり得ると思う。逆に非常にネガティブな評価のシートがあがってきたが実はこういう好事例があった、といったようなこともこの委員会での役割になると思う。

○中村委員

行政の自己評価では、恐らく計画通り行われたかというところで今まで評価をされていたと思う。例えば委託事業を民間が行う場合、自己評価の中に必ず、参加者アンケートを実施して添付しなければならず、それが自己評価に付随したものと見られる。例えば研修に参加する場合、必ず振り返りシートというものを参加者が書くことになっているが、それを実施した結果、およそ何%の人が評価していたとか、少し不満であるとか、そういった事業内容の評価として最低限の受益者の評価がここに盛り込まれるような項目や、アンケートのフォーマットなどを統一して、担当課で評価してもらった中でそれをやったとしたら、今意見が出ているような参加者の評価、地域の評価といったものが私たちにもわかるのではないかと思う。

○樋口委員

行政の担当課としては、当然計画どおりやっているかのチェックは必要だが、最終的には受け手のほうもどうだったかという評価が必要ではないか、という意見だと思う。その評価、そこにすぐ入りこめるかというのは、なかなか難しいのではないかと思う。まず、計画をブレークダウンしながら進めていく時に連携したり、いろいろなことが各担当課を通して出てくると思う。我々には見えないが、ここにある担当課だけではすむ話ではないと思うことが結構多い。もう少し計画をブレークダウンして、その場面を一度評価する、ということであれば了解できるが、最終的な評価は、やはり受け手の問題が大きいと思う。やってもらってよかった、というところまでもってくるのはなかなか難しい。そこをもう少し切り分けながらスタートしたほうがいいのではないかと感じる。受け手と計画の両方、2つの場面をはじめからリンクできればいいのだが、地域に入ると、それも難しいという感じがする。

○鈴木健康福祉部長

先ほど意見としていただいた中で、例えば研修では、基本的に参加いただいた市民の皆様や関係者の方のアンケートを取らせていただくこともあり、そういう部分については、アンケートを集約してどういう反応だったのかという部分を、評価シートの中に十分に入れ込めるのではないかと考える。実施された事業に参加された皆様の意見を、評価としてシートの中に入れ込むことは十分できると思うので、そこは工夫して参りたい。それから、さまざまな事業の中で、例えば 10 の地域でやろうと計画していたものが、例えば 3 つしかできなかったが、その 3 つについては非常に好評で是非継続したいという意見が出た場合に、行政として計画の 10 のうち 3 つしかできなかったという評価と、1 つ 1 つの事業が好評だったという評価を、どういうふうにしていくのかというのは非常に難しいところがある。それについては、委員の皆様に見えるような形で自己評価シートの中に書き込ませるとというのが我々の考え方である。例えば 1 か所しかできなかったが、結果としては非常に好評だったということであれば、それも 1 つの評価として自己評価シートの中に書かせていただき、それを委員の皆様にも、本来計画は 10 か所だったけれども 1 か所もしくは 2 か所しかできなかったがその地域にとっては十分な効果があった、といったかたちで見えるような自己評価シートの作りこみをさせていただく。それを踏まえて、重点施策の例で言うと、例えば人材・コーディネーターの育成に、どの程度その事業を通して効果があったか、というところを社会課でまずは評価をさせていただき、実態を委員の皆様にお示しをしながら意見を頂戴する、という流れで進められればと考えている。

○渡邊(礼)委員

これは自己評価シートで、アンケートではない。シートということになると、6, 7, 8, 9に全く記述枠がないことに疑問を感じる。例えば「6 市の関係部局内との組織横断的な連携」で、「どこ」との関係性の記載がないが、やはりきちんと書けるほうが良いと思う。「できた」、「あまりできなかった」、「必要がなかった」だけでは3分の1でしか評価しかできない。「7 地域保健福祉活動の担い手との連携」も、3分の1ではなくもっと違う見方があるのではないかと思う。それから「8 連携がスムーズにできた相手」の「スムーズ」というのはすごく難しい表現で、スムーズにはできなかったけれども少しくまいった、ということもある。市民団体などは特にそうだが、そういうところはどう評価をしていったらいいのか、というところがあると思う。スムーズにできるということはすごく難しい場合もあると思うので、例えば3つ4つと連携はできたが、その連携はどのようにしてできたのか、という記載があると、そこで評価ができるのではないかと思う。実際は少し連携が取れていたが、自分たちの評価が控えて「できなかった」という団体もでてくると思うが、その「できなかった」という理由が何だったのかを見たときに、もしかしたらちゃんとやっているのではないかという我々の評価ができるかもしれないので、このところは相手が記入できるような方法はないかなと感じた。

○石澤社会課長

ご意見ありがとうございます。確かにスムーズという言葉はとらえどころがむずかしいところもあり、3つの選択肢だけでは何が表せるかということもあるので、工夫させていただきたい。

○阿部委員

先ほど樋口委員から言われた言葉で理解できた。次期計画まで3年くらいあるのでその間に反応をみながら徐々に広げていくというのも、なるほどと思った。しかし、その評価は必ずしなくてはならない時期が必ず来ると思っている。

○渡邊(礼)委員

あくまで評価なので、その団体が一生懸命行ったことに対して負の見方をするのではなくて、ポジティブない方向に評価してあげられるようなものになっていかなくてはならないと思う。やる気がなくなるような評価では次のステップに進めなくなってしまうと思うので、評価をするうえで、団体または事業において、もちろん悪いところは悪いと評価しなくてはならないが、それが次にどう関わっていくか、というのが評価の大事なことだと思うので、そこを考えた評価シートを作成して欲しい。

○齋藤委員

確認をしたいのだが、資料2-3は「重点施策①人材・コーディネーターの育成」のシートだが、資料2-2によると、5つの自己評価シートが出てくるということか。

○石澤社会課長

人材・コーディネーターの育成については、資料2-2を見ていただくと、ナンバー1から9まで事業があるので、9枚のシートが出てくることになる。

○齋藤委員

そうすると、資料2-2「重点施策②話し合う場づくり」の自己評価シートは3枚ということになるのか。その評価シートの枠の中の内容については同じものか。

○石澤社会課長

枠の中は共通である。

○齋藤委員

わかりました。今お聞きしたのは、施策を5つにしているから5つにしたと思うが、29の取り組み・事業があるのであれば29全部評価できる共通シートがあればいいのではないかと思った。

○石澤社会課長

29の事業は、資料2-3の同じシートを使用して29枚作成する。委員の皆様にもすべて見ていただき、そのうえで、5つの重点施策について、例えば資料2-2の「重点施策①人材・コーディネーター育成」であれば、9事業の個別の評価を見据えて、重点施策①全体の評価としてまとめ、行政による自己評価とさせていただく。

○鈴木健康福祉部長

今回お示した資料2-3は（案）という形でお示しをしている。タイトルの「重点施策①人材・コーディネーターの育成」というのは例示であり、今回の「重点施策①人材・コーディネーターの育成」については9枚、取り組み事業名のところに1つつ事業名が入り、1枚ずつ出来上がる。同様に、「重点施策②話し合う場づくり」も、それぞれ取り組み事業名が入り3枚できる、といったかたちになる。資料2-2のタイトル部分に「重点施策①人材・コーディネーターの育成」と記載してあるためにわかりづらくなってしまったが、タイトルは重点施策①から⑤まであり、それぞれにぶら下がるシートが全部で29枚、同じこの様式で出していただくように考えている。

○古賀委員

このシートはとてもわかりにくいというか、資料2-3のナンバリングがおかしいのではないかと。だからわかりにくいのではないかと思います。

○齋藤委員

それぞれ複数枚の評価シートが出てくるのはわかったが、そのように分ける必要があるのかということ。5つの重点施策で、それぞれの重点施策に何枚ということではなく、1から29まで同じシートで、重点施策①といったものを書かなくてもいいのではないかと思います。

○樋口委員

自己評価というのは人事でも行っていると思うが、本人が考えていることがいいか悪いかは別として、複数の評価者がヒアリングをして問題点を指摘するなどして、最終的な評価が固まる。そういうことから、書いたほうが正しいかどうかということよりも、誰が評価するかが重要である。自分勝手にうまいことを書いても、実際はそうでなかったりする可能性も高い。評価が難しいのは、本当に評価になっているのかどうかというところ。それをよく考えた設問にしていかないと、評価自体が表向きだけだったということになる。例えば、講習会を4回行ったがその中身がどうであったかについてはあまり触れずに記入されてしまうと、実際効果がなくても開いたことに対して評価されてしまう。評価そのものの取扱いをどうするかということも考えながら、ある程度やっていく必要があると思う。場合によっては何名かで評価して、直接ヒアリングするなど、きちんと評価されているのかをみたほうがいいかもしれない。自己評価というのは危険性が伴うものであり、自分勝手に考えてよかったと思い、それで終わってしまうこともある。

○石澤社会課長

自己評価というと個人的に書くような感覚があるが、担当課で組織的にきちんと検討していただき、課として決裁を受けてから出してもらったうえで、さらに事務局として内容確認、場合によってはヒアリングをするなど、内容については事務局でもしっかり確認をしたいと思う。また、講習会等の開催回数など、数だけの評価にしてしまうと、中身が見えないので、重点施策に対して貢献できたことや課題など、自由記述の部分についてしっかり読み取っていききたい。

○木村委員

自己評価シートを行政が書くわけだが、それについて不信感ばかり言っても仕方ないと思う。では誰が評価するのかということになると、複雑なシステムになってしまうので、このシステムはこのシステムとして、29の事業を共通したフォーマットで評価するというのであれば、それはそれでいいと思う。内容についてはあくまでも案で、検討するということだが、このやり方でやることについてはかまわないと思う。担当課が自己評価シートを作るにあたっては、自画自賛にならないよう、役所の中だけで自己評価シートをまとめあげるのではなく、実際に関わった方々に意見を伺いながらまとめていただければよろしいのではないかと。

○石澤社会課長

評価の記載にあたっては、現場の意見を聴きながら記載するよう、記載要領等にきちんと盛り込みたい。

○中田委員

この29事業の自己評価について、実際には障害者の相談支援体制推進事業が再掲で2回ぐらい出てくるので実質27くらいになると思うが、行政側ではどのくらいのスパン、例えば年1回など、どのくらいの期間で自己評価を行うのか。自己評価の結果についてこの推進委員会で審議し、意見を出し合うことになると思うので、評価の回数や期間がこの委員会の中身にも関わってくると思った。第2期のプランが27年度までということで、27年度は次の第3期の策定期間にかかってくると思うので、27年度の末頃に自己評価ということでは遅くなってしまふ。最終的な年度での中身を踏まえて次のプラン策定ということになると思うので、時期的なものと同数をどのように計画しているのか伺いたい。

○石澤社会課長

時期的なものについては、1事業年度終了後に担当課による自己評価を記入してもらい、上半期に事務局で全体の評価、集約等を終わらせ、前年度の評価については秋口くらいにこの推進委員会でお計りして、今後の展開や予算等について意見を反映していきたいと考えている。推進委員会の頻度については、その他の重点事業の計画報告なども想定しているので年2回程度の開催を想定している。

○庄司委員

自己評価シート（案）については、これから修正が行われて、3年間評価を実施する予定だと思うが、1年やってみてやはり不備があったという場合、評価シートを変えることがあるのか。

○石澤社会課長

今回ゼロからの出発ということで、まずは事務局のほうで作らせていただいたが、今日いただいた意見を参考にスタートして、実際行っていくうえで不都合な点や不十分な点についてはしっかり直しながら、柔軟にバージョンアップさせながらやっていきたい。

○阿部委員

我々は第2期の策定に関わらせていただいたが、第1期の時には策定後にこのような推進委員会が行われたのか。

○石澤社会課長

要綱に基づく推進委員会などは設置せず、評価については行政による一般的な評価、それから第2期の策定委員を立ち上げた際に、前計画期間全体の評価をしていただいたという位置付けである。

○阿部委員

では、うまくいったかなどは参考にならないということか。

○石澤社会課長

おっしゃる通りである。

○阿部委員長

第1期の評価ではむしろ、4回の計画で4回開催されたかどうか、といった実績値のデータだけ見せられて、実態はどうだったのかという意見が、第1回策定委員会の時にかなりの委員の方から出されたと思う。恐らく事務局としては、第2期地域保健福祉計画策定時の冒頭の会議でそのような意見を頂戴したことを踏まえ、新しく推進委員会という仕組みを立ち上げたのだと私は理解している。先ほどの庄司委員の質問にもあったように、これから改めてスタートさせたいというところ。恐らく評価は定時的に年々で動向をみるという部分が必要だということは承知しているが、評価のシートあるいは基準なども併せて見直すということ、少し長い目で見ていただき、落ち着いたらあまり変えずに何年かの経過の中でどう変わっていったかということを見ていけるように、評価の

仕方、手法そのものも少し長い目で検討いただきたい。

○齋藤委員

先ほどの意見に1つ付け加えさせていただきたい。5つに分けてあるが、29の事業の中には、例えば「重点施策①人材・コーディネーターの育成」をしているが、実は「重点施策③地域内の見守り・支え合いの促進」にも通じるような事業があるのではないか、という気がした。例えばシートの「1 取り組み・事業名」の上に重点施策①から⑤まで書き、特に今回重点をおいたもの、という形であてはまる場所に○をつけるような欄があってもよいのではないかと思います、1から29まで同じものでもいいのではないかと思います。

○石澤社会課長

趣旨はよくわかりました。全て1つに繋がっているというものではない。5つの重点施策を選ぶ際も、この5つをやることでその他19の施策に繋がるという面があった。個別事業についてもおっしゃるとおり、1つの重点施策にだけではなく、具体的に再掲となっているものもあるが、その他にもまたがってくる部分がある。進捗管理という面で、計画に位置づけられた場所、施策の方向に事業がぶら下がっているところを、符合として捉えていただきたい。後はシートの中で、1つの重点施策だけではなくこのようなところにも貢献できた、という部分を書き、皆様に説明できればと考えている。

○阿部委員長

それでは、今日ご意見いただいたものを受けて、事務局側で修正したうえでということになるが、とりあえず動かさせていただきたいと思う。動いたものを見て、委員会で評価の手法そのものも検討していくということにさせていただきたい。

(3) 地域福祉の推進に関する新たな重点的取り組みについて

○阿部委員長

次第6(3)について、事務局から説明をお願いしたい。

○石澤社会課長

(資料3により説明)

○阿部委員長

事務局より説明をいただいた、重点項目としてのコミュニティソーシャルワーカー(以下、「CSW」という)について質問等はないか。

○中村委員

事業を行う際には、事業計画がありそれに従って人材育成を行うと思うが、社協のリーダー格の人たちがCSWとなり、そこに予算を使用し、CSWになった方が行っていた社協の仕事をするために、もともとの社協の経費で人材を募集して加配体制にするということか。それから、支援計画をこれから作成するということが、事業の場合はまずどういう支援をするのかということがあって、それにあわせて人材を調達するということになっていると思う。コミュニティについて言っても、地域の中に入った時に、今の区社協の職員がやれることであれば今までもやっていたと思う。今までやれずに、新たにCSWというものを設置するのであれば専門家の配置をお願いしたい、ということが委員会でもよく出ていたと思うが、どの程度の専門家を育成するつもりなのか。今の社協の体制で行うのであれば、まったく要望を聞き入れられていないのではないかと。

○阿部委員長

2点ほどあったが、いかがか。

○石澤社会課長

これまでも社協ではCSWの育成研修などに取り組んできた実績がある。それから区社協の職員は地域福祉担当として、これまでも小地域福祉ネットワーク活動などを中心とする見守り支え合い

活動など、地域の関係者と、さまざまな働きかけや支援を行いながら、そうした活動がなかった地域にそういうものを根付かせたり、といった活動を行ってきており、中村委員がおっしゃるように社協の本来業務、その通りである。ただ、我々の問題意識としては、社協も人員に限りがある中で、地域の中で体制が作れない地域に自ら繋ぎ役として出ていく、といった積極的な展開ができていなかったというのもある。それから、個人的な力量や経験に左右され、どこの区でも標準的にできていたわけではないという実情もある。今回このCSW研究会を開催したのも、これからの社協は何に力を入れて仕事をしていくのかということを見据え、自ら業務の方向性を整理したうえで、業務を標準化させて、うまくいっていない地域にこそ自ら顔を出して、顔の見える関係を作る、そのような取り組みを目指していく、そうではない地域についても、そうしたことに社協として汗をかいていくべきなのではないか、ということで、社協と我々も十分に相談して事業化にこぎつけたところである。今回体制を強化して、今まではさまざま兼務している職員がそのような位置づけではあったが、新たに職員の採用などを行い、その業務に専念できる職員を生み出し、その職員はCSWに取り組む職員だということを位置づけて、しっかり取り組んでいこうというものである。

○中村委員

地域の中では、社協は信頼のおける行政以外の団体の1つとして位置づけられていると思うので、この計画を、社協を入口としてやっていくことについてはすごく説得力があると思う。ただ、社協のためにその予算が配分されるのはもったいないと思う。社協が今の人材にてこ入れするのではなく、それに見合った人材を新たに雇用しなければならないという規制があるのであれば、少し納得がいく。今の体制の中で、そういう使命を持ってやってくれる人が育っていくのであれば、元々やっているとおり、お金も十分に社協に払われているように思う。その中で人材が育成できないので、それに見合った人材を雇い入れることでプラスアルファとするのであれば、もしかしたら効果があるのではと期待するが、今の体制の中で少し人件費を出してレベルアップして欲しい、その他に臨時職員を入れて事業をさせようということであれば、捨てる金であると思う。社協にCSWを置くのか、地域包括支援センターにその位置づけを置くのか、競っていただいてもよかったのではないかな。丸投げせずに、仙台市がやれないかと聞いて手を挙げるところが出てくれば、社協も少してこ入れしてくれると思う。今、非常に求められている仕事だと思うが、なんとなく横流れしたかたちで社協が行い、当然社協がやるべき使命を本当に果てしてくれるのが心配である。

○阿部委員

このCSWというのはすごく素敵なプランだと思う。こういうCSWが地域に溶け込めるよう、連合町内会、社協、民生委員に事前説明をしてしっかり理解してもらう必要があると思う。地域ボランティアとしていろいろなところで話をさせていただく機会があるが、町内会もいろいろで、例えばNPOとかボランティアなどは好きなことをやっているだけだろうと言われてたりする。そして共通しているのは、この地域は自分で持っている、という独特なプライドがあるということ。そこでその3者に柔軟性を持って受け入れてもらえるような説明をしっかりとやっていかないと、CSWは頭を抱える状況になってしまうと思う。受け入れられる下地をいかに作ってあげるかということが、非常に大事なポイントだと思っている。

○石澤社会課長

ありがとうございます。しっかりそのように取り組んで参りたい。

○諸橋委員

震災前、社協の1回目の地域福祉活動計画策定委員会の時だったと思うが、その時に、CSWという存在があり、それが地域活動のひとつの核になる、というお話をした。その時の私のイメージと実際出てきた時のイメージは少し違ったのだが、基本的に地域福祉、地域での助け合いというのは、もう一方で、これまでの施設サービス中心の福祉も変わっていくことが必要である。そのようなものが一つないと少し物足りないかなと思う。ただ、社協を担い手としてこのような形で出発するというのは非常によくわかる。実際に豊中市や堺市など、関西でCSWをやっているところがいくつもあり、その中で果たす役割というのを周知して、そういう1つの切り口になればいいかなという気がする。ただもう一方で、地域住民でしっかりと決めて自治を行っていく、そのコーディネーターであったり繋ぎ役がCSWだと思うので、やっていく中でもっと揉まれて仙台版のCSWが作られていく必要があるのかなという気もするし、そのことに対する意見や提案をしっかりと

くことが、我々の重要な役割ではないかと思う。

○庄司委員

確認だが、これは25年度の計画ということでよいか。これはどれくらいの期間で行うものか。

○石澤社会課長

これは社協の本来業務なので、こういう仕事の仕方をしっかりと定着させ、どんどんレベルアップしていければと考えている。業務の整理もして、社協としてずっと取り組んでいく事業である。

○庄司委員

25年度の予算額のところに県の補助事業と書いてあるが、補助事業があるうちはこれに取り組んでいくという理解でよろしいか。

○石澤社会課長

メインは社協の正職員に専任のCSWとして業務をしていただくものなので、補助金の有無に関わらず、社協の中心事業としてしっかりやっていくことを想定している。

○渡邊(純)委員

人件費2,500万円ということだが、各区3名で2,500万円はかなり少ないという気がする。

○石澤社会課長

各区一人ずつ、5名分で予算を見積もっている。もっぱらCSWにあたる方の補助の分として確保するものである。

○渡邊(純)委員

先ほど阿部委員がおっしゃったように地域はみんな違う。その違った地域を活かしながらCSWをしていかなくはないといけないというのは、かなり大変だと思う。そこに住んでいれば自分の地域はある程度見えるが、その住人ではないので、100個あれば100個違うものを活かしながらコーディネートするというのものはものすごく大変なことだと思う。なので、阿部委員のような地域の方から意見を聞きながら、引き出しながらなっていくのだと思うが、今仕事をしている皆さんは大変忙しい方々だが、このような人たちが新たな仕事に向かうのは大変だろうと思う。本当に必要とされているCSWなので、是非ゆっくりでもいいので進めていって欲しい。

○樋口委員

地域でCSWの役割をする方はかなり要望されているが、相当レベルの高い人でないと対応できないと思う。やはりそれなりの人がいっぱいいるので、それを結びつけるのは大変だと思う。相当レベルアップしてもらうことが大事で、あとは地域をよく知ってもらうということもすごく大事である。転勤等のために2、3年で変わってしまうと地域がわからなくなってしまうので、その辺の人員の配置のしかたや協力のしかたなどをしっかり活かせるようなシステムを作り、配置していけばよいのではないかと思う。今後期待したい。

○鈴木健康福祉部長

社協に対する評価を含め、さまざまなご意見をいただいた。当面、復興計画期間中は先ほど説明した復興公営住宅が建設される地域にまずはきちんと関わっていき、その体制作りに責任を持って取り組んでいくことがスタートになると思っている。そこで実践からの経験等を踏まえ、地域展開を広めていくという流れである。評価はこれから実践の中で委員の皆様からも厳しい意見を頂戴しながら進めていくことになるが、社会福祉法の中に社会福祉協議会の役割が明確に位置づけられており、その責務を果たしていくことが求められているわけで、特に震災以降そうした役割を積極的に担っていくということは、これから社協をきちんと評価し、力をつけていってもらうための試金石になるのだろうと思っている。そういった意味では、仙台市でも全面的にバックアップしながら一緒にこの事業を進めていく覚悟である。ご意見いただきながらきちんと回っていくように進めていきたい。

○庄司委員

復興公営住宅を重点的にということだが、阪神淡路大震災の時、確か5年後に復興公営住宅に入居し約12年経って多くの方が孤独死した、ということを見ると、仙台でもそのような悲劇を起こさないためにも、当然社協の職員がそのような活動をするのは当たり前であろうし、私たち民生委員もそういった活動をしなければならないという自覚を持ち、事あるごとにその辺は刺激をしていきたいと個人的にも思っている。

○石澤社会課長

ご指摘の通り、やはり復興公営住宅の中の方だけの支援ではなく、その地域全体、例えば連合町内会単位の地区社協などで、一般の住人も含めた見守り支え合い体制が大切だと思うので、通常の小地域福祉ネットワーク活動のように、社協と民生委員児童委員の皆様とも連携して、しっかり手を携えてやっていければと思うのでよろしくお願ひしたい。

○阿部委員長

色々ご意見いただきありがとうございます。2月の上旬に宮城県社会福祉協議会がフォーラムを開催した。午後3分科会があり、社協のあり方について協議する分科会に私も一参加者として参加した。社協内部からも宮城県社協のあり方について疑問が出され、それを踏まえて将来に対する不安もかなり積極的に出されていた。先ほど諸橋委員から紹介のあった豊中市からCSWの方が来られて、午前中に講演があり、午後の第3分科会でCSWのありかたについて協議するワークショップが開かれていた。ここではCSWに関して社協のタイトルであったが、皆さんもご承知の通り、石巻では別のスタイルでのCSWをこの4月からスタートさせることになっている。また、先ほど中村委員から紹介があった地域包括支援センターでもCSW的な活動をされているスタッフがいることも承知している。とりあえず、仙台市では仙台市社協と一緒に社協のタイトルのCSWを育ててみようということ。豊中市の例で、あまり取り上げられておらず始めて知ったことであるが、実は豊中市の内部に、CSWの対応困難な事例に対して行政が縦割りを越えて調整検討する組織がある。そういった全体のシステムも作りながら、CSWを活かしていく道を探ることの可能性が今ここにあるとご理解いただきたい。そして可能であれば仙台でも豊中市のように取り上げられるCSWを1人でも2人でも作りたい、という夢を込めている。先ほど覚悟という言葉が出たが、社協もそうだと思う。社協も内部的にこのままでよいのかという意見が出ている。私たちも覚悟を持って一緒に育てていければと思う。なお一層のご支援をお願いして、この協議事項は終わらせていただく。

(4)その他

○阿部委員長

その他、今日ご出席の委員から何か発言やご案内、ご紹介等あるか。

(意見等なし)

○阿部委員長

事務局はいかがか。

○石澤社会課長

議事の中でも若干触れたが、今後の予定等について改めて紹介させていただく。本日ご協議いただいた評価のさまざまな様式に基づき、具体の事業関係各課から報告を受けてまとめ、今年度は秋頃にその結果を皆様にお計りする委員会を開催したいと考えている。その際には、先ほどご報告したCSW関係についてもいろいろ進展していると思うので、また報告させていただきたい。今後の議事の内容等にもよると思うが、社協との合同開催についても委員長と相談して参りたい。

○阿部委員長

次第6の議事はこれで終了とさせていただきます。

7 報告

○阿部委員長

次第7報告について事務局から何かあるか。

(報告事項なし)

8 閉会

○阿部委員長

以上で本日の委員会を終了とさせていただく。長時間にわたり本当に多様な多数のご意見をいただき、また熱心なご検討をいただきありがとうございました。

○氏家社会課主幹兼地域福祉係長

阿部委員長ありがとうございました。以上をもって本委員会を閉会させていただく。

以上